

浦水会館

▶ 宿泊・会議室の一般校友の利用は11月末まで ◀

〈表紙写真〉

来春から — 大学の生涯学習センター の拠点に改装

「浦水会館」は、昭和53年6月に竣工以来22年、校友会館としての役割を担ってきた。大学白山キャンパスの斜め前に位置し、2階に校友会本部を置き、事務局スタッフが常勤し、「卒業生20万人」の名簿データの保守、整備、会報の発行などにあたってきた。4階の会議室や5階の宿泊室は少ないながらも、校友にとって卒業後も安価に安心して利用できる施設でもあった。校友会が、昭和41年に大学正門前に校友会館建設用地として購入した土地186.21坪に建つ。延べ床面積543.22坪。

命名の由来は、学祖井上元了博士が新潟県三島郡浦村(旧地名)の出身から郷里を思い、浦の字を浦と水(氵)に分けて浦水の号を名乗ったことから、学祖顕彰の精神から名付けられた。



浦水会館が完成 — 校友多年の夢を達成

6月24日全国支部長を交えて落成式

大正制100周年を記念して約半世紀前から構想にとりかかっていた浦水会館は、6月10日に竣工し、24日午後4時から四階「藤田道雄記念室」で大学関係者、校友会全国支部長、元役員、元教職員など約400名を列挙して盛大に挙行政式落成式が執り行われた。

なお式の後、4階会議室に改装が催され、浦水会館の完成が祝われた。

— 浦水会館の施設 —

浦水会館は、校友会館棟(予定)となつて、旧校舎白山キャンパスの真下に建設されたもので地下1階、地上4階建て。第一階は機械室、第二階はレスラン(定員10名)、第二階は校友会本部、会議室、応接室、大会客待室、応接室、会議室、三階は井上元了記念室、大学本部室、四階は「井上元了記念室」として、90周年に「センター」を改装して、90周年記念室とする。

式は、大正制100周年を記念して約半世紀前から構想にとりかかっていた浦水会館は、6月10日に竣工し、24日午後4時から四階「藤田道雄記念室」で大学関係者、校友会全国支部長、元役員、元教職員など約400名を列挙して盛大に挙行政式落成式が執り行われた。

なお式の後、4階会議室に改装が催され、浦水会館の完成が祝われた。

— 浦水会館の施設 —

浦水会館は、校友会館棟(予定)となつて、旧校舎白山キャンパスの真下に建設されたもので地下1階、地上4階建て。第一階は機械室、第二階はレスラン(定員10名)、第二階は校友会本部、会議室、応接室、大会客待室、応接室、会議室、三階は井上元了記念室、大学本部室、四階は「井上元了記念室」として、90周年に「センター」を改装して、90周年記念室とする。

校友会報第109号(昭和53年7月25日発行)

いま

いま大学や大学をめぐる環境は、大きく変わっている。東洋大学も昭和62年の創立100周年事業を期に「大学の二世紀」にむけて着々と改革を進めてきた。白山再開発と呼ばれる白山キャンパスの建替工事も1990年から約10年を経て、2001年2月にⅢ-I期工事が竣工する。引き続き、3月頃から旧校舎で唯一残っている昭和41年に80周年記念館として落成した旧1号館が解体され、跡地は、白山コモンとして白山校舎の表玄関として一新される。その後方にⅢ-II期工事として井上記念館の建築が始まる。この記念館は、主に大学院の使用部分となる。このⅢ期工事で、当初の白山再開発は完成する。

校友

つぎの21世紀には、昨年3月に白山校舎の西側に買収した土地と既存の隣接校地を合わせた2300坪には、地の利も有利であり、新しい構想が展開していく。

校友と大学との関係って何だろう。若い卒業生は、「東洋大学」の学風や校友に特別の愛着があるのだろうか。卒業後数十年を経過して、人生の軌跡を辿るときに自己の青春の存在を証明するものとして、母校があるのだろうか。卒業生20万人、住所登録者が13万人の現在、校友会

としての組織が機能するために何を成すべきか、いま迫られている。「私立学校法」第44条第二項に学校の評議員会の構成員として、第一に専任の教職員から、第二に卒業生からと明記されていることから、「校友」としてのジャンルは公的な存在であり、母校の経営に参画する義務と責任を有するものであることがわかる。

また、大学にとっては、社会が大学の総合力を判定するものとして、卒業生の資質や動向が問われる。その意味から、卒業生は大学にとって重要なファクターであり、入学志願者の減少期にあるいま、従前のような募金の際の対象者としてのみに焦点を合わせていたのでは求心力をみすみす失うことになりかねない。

校友会

校友会は、校友一人ひとりの母校への思いを紡ぐ組織体であり、同窓の親睦を深める出会いの場であり、校友の代表を大学の評議員、理事、監事に送り出し、大学の経営に参画している大きな責任を負っている。だが、大学や校友会への帰属意識を育てたり、求心力を持たせるものがないと、校友会に積極的に参加している人だけのものになってしまい、卒業生の総意が集まらず組織としての力が蓄えられない。

生涯学習の場として、卒業後も大学に気楽に立ち寄り、図書館を利用したり、公開講座や研究会に出席で

校友会館敷地決まる

「校友会館敷地」は、わが大学の「不変の礎」として、その重要性は、周知の如くである。従って、校友会館敷地の選定は、慎重に検討され、決定された。校友会館敷地は、わが大学の「不変の礎」として、その重要性は、周知の如くである。従って、校友会館敷地の選定は、慎重に検討され、決定された。

面積は百五十二坪

相当

記念館前の都電通り 待望の夢いよいよ実現へ

わが校友会館敷地は、わが大学の「不変の礎」として、その重要性は、周知の如くである。従って、校友会館敷地の選定は、慎重に検討され、決定された。



発行所 東洋大学校友会
東京都文京区東町17
(東洋大学1号館内)
電話 東京区(41)4233番
郵便 口座東京区01833番
支店 東京都文京区東町17
支店 東京都文京区東町17



第2回評議員会

評議員会は、校友会館敷地の選定について、慎重に検討され、決定された。

評議員会は、校友会館敷地の選定について、慎重に検討され、決定された。

会館用地買増し決定 西隣へ三六・一坪を拡張

校友会報第60号 (昭和44年6月25日発行)

校友会報第42号 (昭和41年5月31日発行)

校友会館敷地は、わが大学の「不変の礎」として、その重要性は、周知の如くである。従って、校友会館敷地の選定は、慎重に検討され、決定された。

浦水会館

浦水会館は、その意味で、建設の経緯から使用状況からも一定の役割を果たしてきたといえる。昭和25年当時の卒業生は約9千名、そのうち所在の分かる校友3千名に「校友会館建設基金募金」をおこない、校友会館が完成し、卒業生が集える念願の場が出来た。が、建築後10数年で、大学の都合(80周年記念館建設にともなう代替地にするため、土地の明け渡しを要請された)によってこれを閉鎖した。

共有施設

共有施設として浦水会館は出発した。大学の90周年記念事業の一つとして、昭和51年12月の大学理事会において建設が正式決定された。しかし、記念事業を推進するに当たっても朝霞校地買収、移行という大事業のときであり、90周年はささやかに質素にやる事を基本として、大学は以下の4点の方針を決め、校友会、父兄会の了解を得ることになった。

- (1) 記念館の建設は土地がないので校友会館建設予定地に建てることを校友会と交渉する。
- (2) 大学が校友会に支払うべき旧校友会館跡地の地上権の補償などの債務をこの機会に支払い、同時にこれを浦水会館の建設費として、寄付してもらうよう交渉する。
- (3) 父兄会館を廃止し、記念館に移設するとともに父兄会館を売却し、

きる。また、会議室や教室などを利用してOB会を開いたりできる。そんな場を提供して卒業生とのネットワークを強固にすることが、これからますます大事になっている。そのためにも、校友会と大学が良い関係を保ち、尊重し合いを守らなければならない。

地取り引きに関する税法上の問題や登記が会長個人名義になってしまつては困るとの事情もあり、購入資金を大学に寄付をした形をとり、やがて校友会がなんらかの法人格を得た時は、この土地を校友会に返却すべきものとして覚書によって確認をおこなった。さらに、昭和44年にこの隣地を買い増し、現在の建設用地186・21坪、合計購入資金8,111万円となり、昭和45年に「土地の名義は大学であるが、使用権は校友会とする」契約を締結した。

東洋大学校友会館



旧校友会館
(昭和28年9月～昭和44年6月)

興 業 的 報 告

東洋大学校友会館建設委員会(以下「委員会」と)は、東洋大学校友会館建設事業(以下「建設事業」と)の進捗状況を、昭和44年6月30日現在、以下の通り報告いたします。

一、建設事業の進捗状況

(一) 設計業務：設計業務は、昭和44年6月30日現在、概算設計が完了し、基本設計が完了しております。

(二) 用地取得：用地取得は、昭和44年6月30日現在、用地取得が完了しております。

(三) 建築費の概算：建築費の概算は、昭和44年6月30日現在、概算建築費が1億2,780万円となっております。

(四) 建設費の概算：建設費の概算は、昭和44年6月30日現在、概算建設費が1億2,780万円となっております。

(五) 建設費の負担：建設費の負担は、昭和44年6月30日現在、校友会館建設委員会が1億2,780万円、校友会が1億2,780万円、父兄会が1億2,780万円、大学負担分は5,780万円となっております。

(六) 建設費の支出：建設費の支出は、昭和44年6月30日現在、建設費の支出が1億2,780万円となっております。

(七) 建設費の収入：建設費の収入は、昭和44年6月30日現在、建設費の収入が1億2,780万円となっております。

(八) 建設費の収支：建設費の収支は、昭和44年6月30日現在、建設費の収支が1億2,780万円となっております。

(九) 建設費の残高：建設費の残高は、昭和44年6月30日現在、建設費の残高が1億2,780万円となっております。

(十) 建設費の将来：建設費の将来は、昭和44年6月30日現在、建設費の将来が1億2,780万円となっております。

東洋大学校友会館建設委員会(以下「委員会」と)は、東洋大学校友会館建設事業(以下「建設事業」と)の進捗状況を、昭和44年6月30日現在、以下の通り報告いたします。

一、建設事業の進捗状況

(一) 設計業務：設計業務は、昭和44年6月30日現在、概算設計が完了し、基本設計が完了しております。

(二) 用地取得：用地取得は、昭和44年6月30日現在、用地取得が完了しております。

(三) 建築費の概算：建築費の概算は、昭和44年6月30日現在、概算建築費が1億2,780万円となっております。

(四) 建設費の概算：建設費の概算は、昭和44年6月30日現在、概算建設費が1億2,780万円となっております。

(五) 建設費の負担：建設費の負担は、昭和44年6月30日現在、校友会館建設委員会が1億2,780万円、校友会が1億2,780万円、父兄会が1億2,780万円、大学負担分は5,780万円となっております。

(六) 建設費の支出：建設費の支出は、昭和44年6月30日現在、建設費の支出が1億2,780万円となっております。

(七) 建設費の収入：建設費の収入は、昭和44年6月30日現在、建設費の収入が1億2,780万円となっております。

(八) 建設費の収支：建設費の収支は、昭和44年6月30日現在、建設費の収支が1億2,780万円となっております。

(九) 建設費の残高：建設費の残高は、昭和44年6月30日現在、建設費の残高が1億2,780万円となっております。

(十) 建設費の将来：建設費の将来は、昭和44年6月30日現在、建設費の将来が1億2,780万円となっております。

理事 会 員 名 簿

学校法人東洋大学理事会左記の通り開催した。

昭和十五年六月三十日(土)午後八時三十分

場所：パレスホテル

出席定数：二十名

出席理事：大島昌雄、三沢元寛、亀川敏雄、藤村英一、藤井伸太郎、大島昌雄、平山 眞、竹村善太郎、海田大起、高橋正太郎、元玉寛一、岡本 一、平野 剛、坂井改造

出席委員：尾本海雄、内海伸行

大島理事が議長となり理事定数二十名のところ出席理事十四名につき事務進行第二十二号議案「校友会館建設費の概算」を付議し、全会一致で可決した。

第三号議案「校友会館建設費の負担」を付議し、全会一致で可決した。

第四号議案「校友会館建設費の支出」を付議し、全会一致で可決した。

第五号議案「校友会館建設費の収入」を付議し、全会一致で可決した。

第六号議案「校友会館建設費の収支」を付議し、全会一致で可決した。

第七号議案「校友会館建設費の残高」を付議し、全会一致で可決した。

第八号議案「校友会館建設費の将来」を付議し、全会一致で可決した。

第九号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十一号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十二号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十三号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十四号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十五号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十六号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十七号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十八号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第十九号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

第二十号議案「校友会館建設費のその他」を付議し、全会一致で可決した。

右は原本と相違ありません

昭和十五年九月一日

学校法人東洋大学	理事 大島昌雄
理事 三沢元寛	理事 藤村英一
理事 藤井伸太郎	理事 大島昌雄
理事 平山 眞	理事 竹村善太郎
理事 海田大起	理事 高橋正太郎
理事 元玉寛一	理事 岡本 一
理事 平野 剛	理事 坂井改造
委員 尾本海雄	委員 内海伸行
委員 大島昌雄	委員 三沢元寛
委員 亀川敏雄	委員 藤村英一
委員 藤井伸太郎	委員 大島昌雄
委員 平山 眞	委員 竹村善太郎
委員 海田大起	委員 高橋正太郎
委員 元玉寛一	委員 岡本 一
委員 平野 剛	委員 坂井改造

その代金を浦水会館の建設費として寄付してもらうことを父兄会と交渉する。

(4) 記念館には校友会館、父兄会館の機能を併設するとともに、学祖井上円了博士の記念室を設け多目的会館として、大学、校友会、父兄会の三者が共同使用する。

この結果を受け、大学は(株)笹川スエラ設計事務所設計、監理を依頼し、昭和52年8月の競争入札の結果、建築は株木建設(株)、機械設備工事は新菱冷熱工業(株)が落札した。同年9月、地鎮祭が挙行され、翌53年6月竣工、6月24日に校友会全国支部長が参加して、盛大に落成式が挙行された。建設費は什器備品を含めて3億2,780万円で、校友会が1億5千万円、父兄会が1億2千万円の寄付金として、大学負担分は5,780万円だった。建物は、延べ床面積543・22坪の地下1階、地上5階建てで、1階レストラン以外は学生の使用は禁止として、大学教職員、校友会、父兄会の使用を優先とした。

こうして、旧校友会館の建設、撤去、土地購入と29年間の経過を経て校友会館の思いが結実したが、単独の会館ではなく、大学の手で父兄会(現 浦水会)も加わる形で、昭和53年6月にこの地に「浦水会館」と命名され落成した。そして、完成後10年にわたって建物の使用・権利関係について、校友会常任委員会において種々論議され、昭和63年4月に大

学、校友会、父兄会で構成された浦水会館使用管理委員会が正式に発足し、使用に関する規程が作られた。使用管理は大学でおこない、問題があればこの委員会で協議される。

しかし、時の経過とともに、建設の経緯を知る関係者が少なくなり、白山再開発工事がこの10年にわたっていることから、就職、入試などの繁忙期には、教室、会議室の不足から、浦水会館を長期使用せざるを得ない現実が慢性的になり、校友の利便性は失われている現状であった。また、父兄会(現 浦水会)が入居しその使用権利を同等としたが、浦水会館の老朽化、使用変更にもない、将来的に微妙な問題ともなろう。

これから

東洋大学は、白山キャンパス再開発、板倉キャンパスの開学、朝霞キャンパス、川越キャンパスの充実と次代にむけて、教育・研究の環境整備がおこなわれてきた。最近15年程の卒業生のイメージは、常にどこかで建築の槌音のひびく東洋大学であっただろうし、2001年以降も大きく変容していくことが想定されている。あわせて教学改革も進められ、新学部や学科の改組新設、それともなうカリキュラムの改正、教学および事務組織の変更などもおこなわれている。

そのなかで、昨秋大学から、浦水会館を通信教育や公開講座などの生

雨水会館改装計画に係わる覚書

今般の大学の雨水会館改装計画による生涯学習センター移行について、校友会は、大学の白山校舎再開発途上における教室・会議室等不足の事情を理解し、協力を惜しまない。

但しこの機会に、雨水会館建設土地は校友会が法人化の折りには返還する旨の合意の存することを再確認するものとする。

記

- 1) 校友会本部は5階に移転する。但し、レイアウトについては校友会の要望を入れ、業務に支障を来さないような配慮をおこなう。
- 2) 移転にともなう面積減の充当分として、3階の特別会議室を4階に移設して、校友会優先会議室とする。
- 3) 1階の校友会資料室兼倉庫使用分の代替倉庫を地下1階に確保する。
- 4) 5階宿泊室の廃止における代替については、全国校友の利便性を考慮して、将来的な検討課題とする。
- 5) 大学記念施設建設の際には、校友会の現状使用面積(179.6㎡)以上の専有面積を確保する。

以上について、本覚書を2通作成し、甲・乙各1通宛保有する。

平成12年5月22日

(甲) 学校法人 東洋大学 理事長 塩川正十郎

(乙) 東洋大学校友会 会長 藤井 淑



生涯学習センターとして使用したいとの話があり、校友会にとつては難問を背負うこととなった。
大学の発展にとつて必要なことは、諸手を挙げて賛成協力したい。しかし、校友会本部の使用面積が手狭になるだけではなく、一般校友に開放されていた宿泊室や会議室がなくなることは、校友会館の機能を併設して発足した建設の意図がなくなる重大事であった。校友会常任委員会では協議を重ね、決議機関である代議員

会にも諮り承認を得て、今般、大学の要望に協力する形で、校友会事務局移転などに応じることとなった。大学の計画にそつて、6月下旬から改装設計が始まっている。
この際に、校友会の帰属部分である使用権、土地の権利などについて再確認のうえ、改めて「覚書」(7頁写真)を大学と取り交して、協力する運びとなった。その中で、特に将来、大学が記念施設等の建設の際には、今回の経緯を踏まえて、校友会

の現状使用面積以上の専用面積を確保することを強調した。
時計が回り、時が過ぎ、人が変わろうとも忘れてはいけないものがある。先人が残した校友の財産は、校友のためにある。しかし、母校のために使われるのは喜ばしいことではある。この事実を尊重し、校友、大学関係者みんなに忘れないでいて欲しい。

(常任委員 広報部長・磯部荀子)

現 況		改 装 後		使用(業務)開始日	
地階	浴室・機械室	26㎡	倉庫(校友会・雨水会)	26㎡	2001年 3月中旬
1階	食堂・管理人室	245㎡	生涯学習センター事務室	265㎡	2001年 3月中旬
	校友会資料室	13㎡			
2階	校友会事務局	167㎡	会議室(大学優先)	288㎡	2001年 6月初旬
	雨水会事務局	139㎡			
3階	井上円了センター資料室 (元・井上円了記念室)	149㎡	会議室(大学優先)	225㎡	2001年 6月初旬
	特別会議室 (元・大学来賓室)	76㎡			
4階	会議室 3室 (大会議室として使用可)	215㎡	特別会議室 (校友会・雨水会優先)	82㎡	2001年 3月中旬
			会議室(大学優先)	67㎡	
			会議室(大学優先)	66㎡	
5階	宿泊室(シングル7室、ツイン2室、 和室会議室10畳・8畳の2室)	220㎡	校友会事務局	110㎡	2001年 3月中旬
			雨水会事務局	110㎡	